大内氏と琉球

佐伯 弘次：九州大学文学部

守護大名の島津氏や細川氏が琉球と密接な関係を有していたことはよく知られている。細川氏と日明貿易の覇権を争った大内氏と琉球との関係については、専論もなく、あまり知られていない。以下、大内氏と琉球の関係を示す史料を紹介したい。

近藤清石編「大内氏実録士代」（山口県文書館所蔵）巻１５には、某人の発給した一連の書状写しがある。内容を検討すると、長享２年（1488）の大内政弘の書状写しと考えられる。

その中に以下の３通の琉球関係文書がある。

１．２月１３日大内政弘書状（島津陸奥守宛）

２．２月１３日大内政弘書状（琉球国世主宛）

３．２月１３日大内政弘書状（天開寺宛）

１の政弘書状では、「仍遣船於琉球国候、可然様被加御下知候者可為祝着候」とある。琉球に船を派遣したので、琉球への中継地である薩摩・大隅を押さえる島津氏に、大内船の安全な渡海を依頼したのである。

先年故三品教弘令啓候、其後予又至貴国同令呈書信候、近年自然之馳過、慮外之至候也、併以万里咫尺之理、賜優恕者多幸候、心緒猶使者可令啓達候、誠恐敬白、

二月十三日　　御位署（大内政弘）

謹上　琉球国世主殿

この史料２から、①先年、大内教弘が琉球に書信を送った、②その後、政弘もまた琉球に書信を送ったが、近年は無沙汰であった、③今回再び政弘は使者を琉球に送った、ということがわかる。すなわち寛正６年（1465）に没した教弘代に１度、政弘代に２度の琉球遣使があったのである。遣使の頻度はそれほど高くないが、大内氏が室町期から琉球に通交していたことが確認できた。

３では、大内政弘から琉球国王への献上品が、屏風１双・扇子２０柄・椀５具・筵 100 枚・紙 100 帖であったことがわかる。さらに琉球天開寺（天界寺）の僧に対して政弘は、「分国御経歴之時分者、雖為幼少之比、対謁于今無忘却候」とのべている。この僧はかつて大内領国内に住しており、政弘も幼少の頃対面したことがあったのである。大内氏の琉球通交と並行して、領国内の禅僧の琉球渡航が存在したのであり、大内氏はこれを利用することによって、琉球との関係強化を図ったのである。